❸針と糸 STITCHES

対応症例　裂傷（出血線）の縫合

大きな傷や切開した患部、つなげた血管などを縫い合わせるときに使用する、糸と針のセット。コントロールスティックの右で選択する。Ⓐまたは🄱ボタンを押したまま、一筆書きでポインタカーソルをジグザグに傷の端から端までスライドさせると、その軌跡に沿って患部を縫うことができる。なお、傷の途中でボタンから指を離したり、傷口から大きく外れたり、折り返しの幅が広すぎるといった処置はミスになってしまうので注意すること。この器具の操作が早ければ早いほど、終盤の複雑な術式で役に立つ。確実に行なえるようになっておこう。

コマンド

- 傷の上でⒶまたは🄱ボタンを押したまま、ジグザグにスライドさせる

序盤のエピソードを何度もリプレイして操作に慣れよう。針と糸の扱い方のコツをそこでつかむといい。

❹ドレーン DRAIN

対応症例　血液、組織液の吸引

術野を覆ってしまっている出血、胸水などの体液や気化した毒素を長い管を使って吸引する器具。コントロールスティックの右下で選択する。ドレーンを手に取り、吸引を行ないたい患部にポインタカーソルを合わせると、長い管が出現。その状態でⒶまたは🄱ボタンを押し続けることで液体や気体を吸引することができる。なお、吸引を行なっている状態でWiiリモコンをスライドさせると、いくつかの患部の出血を連続で吸引することも可能だ。大量の出血を伴う大きな裂傷や複数の血栓を吸引するといった手術の場合は、このテクニックを使うといい。

コマンド

- 患部でⒶまたは🄱ボタンを押し続ける

出血している患部を見つけたら、すぐさまドレーンを選択。血だまり＝ドレーンと覚えて間違いない。

❺レーザー LASAR

対応症例　小腫瘍の焼却

切除しにくい小さな腫瘍や体内に寄生するギルスを焼却する際に使用する器具。コントロールスティックの下で選択する。Ⓐまたは🄱ボタンを押しているあいだ、Wiiリモコンのポインタカーソルが当たっている位置にレーザーが照射される。そのままの状態でWiiリモコンを動かせば、活動中のギルスを追いかけてレーザーを照射し続けることも可能。ただし、健康な部位を長時間照射すると、臓器を傷つけて出血させてしまう恐れもあるので、レーザーを当てる的が動かない場合は、その患部を狙ってポン、ポンと小刻みにボタンを押すように照射を行なおう。

コマンド

- 患部でⒶまたは🄱ボタンを押し続ける

レーザーは便利だが、使い方を間違えると患者を傷つける武器にもなってしまうので、注意したい。

❻スキャナ（エコー、ルーペ） ULTRASOUND/MAGNIFICATION

対応症例　病巣の影の探知
患部の拡大表示

コントロールスティックの左下で選択するスキャナには、臓器内に隠れている病巣の影の位置を探知する「エコー」と、執刀する患部の拡大／縮小表示を行なう「ルーペ」の2種類の機能がある。基本的にはエコー機能を使うことが多く、スキャナは通常黄色のサークルアイコンで表示されるが、患部の拡大表示が必要となるいくつかのエピソードでは、青い色のサークルへとアイコン表示が変化し、その場合はエコーとルーペの両方の機能が使えるようになる。なお、エコー、ルーペのそれぞれの機能の操作方法は、下で詳しく解説するので確認しておこう。

コマンド

- エコー……患部でⒶまたは🄱ボタンを押す
- ルーペ……患部でⒶボタンを押す。もう一度Ⓐボタンを押すとルーペ解除。ルーペ機能中は🄱ボタンでエコー機能も使用可能

エコーサークル

ルーペサークル

エコーサークル時の操作

Ⓐまたは🄱ボタンを押すと、Wiiリモコンのポインタカーソルが当たっている位置に波紋が広がる。この波紋の範囲内に病巣や寄生したギルスが潜んでいた場合は、その影が映し出され、表示されているあいだはそれを処置することが可能になる。

エコーで表示した影は一定時間で消失する。表示後はすばやく次の処置に取りかかろう。

ルーペサークル時の操作

エコーとルーペの両方が使える場合は、Ⓐボタンがルーペ、🄱ボタンがエコー機能になる。ルーペ機能を使用すると、Wiiリモコンのポインタカーソルが当たっている位置を中心に患部が拡大表示され、もういちどⒶボタンを押すと元のアングルに戻る。

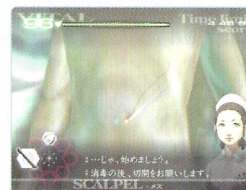
ルーペ機能を使うと、通常肉眼では確認できない極小の患部の処置が可能となる。

❼メス SCALPEL

対応症例　皮膚の切開
患部の切除

皮膚や血管、腫瘍などの切断、スキャナのエコー機能で発見した病巣を露出させるときなどに使用する器具。コントロールスティックの左で選択する。手術中に切開の必要がある部位には、ガイドラインが表示される。ガイドラインにはマーカーと呼ばれる点があり、それらをすべて通るようにメスを動かすことで、その部分を切ることが可能だ。Ⓐまたは🄱ボタンを押したまま、カーソルをガイドラインに沿ってスライドさせるのだが、このときに切開の途中でボタンを離すことなく、最後まで一筆書きで切り進めるのが処置を成功させるポイントである。

コマンド

- Ⓐまたは🄱ボタンを押したまま、ガイドラインにそってスライドさせる

マーカーから大きく外れるとミスになる。関係のない場所を切ると出血線を作ってしまうことも。